廿一代撰者和歌集

服部文庫
イ17
605

梅翁主人跡

北一代集　撰者自欲用深　但紙奇旋既奇深之
右今集　紀貫之　紀友則　凡河内躬恒
三条忠峯　等撰之
後撰集　人中務能宣　源順　清原元輔
紀時文　坂上望城等撰之
但此集撰者奇不見
拾遺集　花山法皇御自撰但御奇不見
或右衛門督公任撰ト云
右大臣道兼撰之
後拾遺集　源俊頼撰之
金葉集
新花集　左京大夫顕輔撰之

河内氏藏書

千載集　皇太后宮大夫俊成撰之

新古今集　右兵衛督通具　人麿卿有家

　　左近中將定家　前上総介家隆

　　左近少將雅經等撰之

新勅撰集　権中納言定家撰之

續後撰集　前大納言為家撰之

續古今集　前内大臣　前大納言為家　侍從行家

　　右大辨光俊等撰之

續拾遺集　前大納言為氏撰之

新後撰集　前大納言為世撰之

玉葉集　前大納言為兼撰之

續千載集　前大納言為世撰之

續後拾遺集　民部卿為藤　右兵衛督為定等撰之

風雅集　花園院御自撰

新千載集　前大納言為定撰之

新拾遺集　民部卿為明撰之

新後拾遺集　権大納言為遠　権中納言為定等撰之

　但此集序三為重撰之ト有

新續古今集　権中納言為世撰之

古今集

紀貫之

河内文庫藏書印

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白雪しきたえしいとく高山のこすえつたかう
ちるやうな秋のいろさにふかまさるもみぢの色を
梅のさく白雪のうちにふくうぐひすのこゑ
咲そめしいとくさくらさくらのさかりにそ
人ぱのしげくてちりわかれぬるものの名残ハ
秋のありあけをわすれぬこころをし秋さへ
ぬるるこゝろ哉なるとそうつるやうの秋の心ぞ
夕ぐれのうつりゆく秋のこゝろ
高ゐのこゝろ
冬ごもりこゝろ
梅の香に春を明る高ゐのこゝろ
消しのゆきのあるうれしさ
くるゝ春の山ハ
白雪の降くれぬ今ハ山下
おりゐるうぐひすの
こゝろ
白雪のこゝろ
白雪のこゝろ
白雪のこゝろ
白雪のこゝろ
白雪のこゝろ
白雪のこゝろ
白雪のこゝろ

いたづらに田をなくしてお酒のみ給ふ事
のつけとなれるなりけさ雨降てこゝにこゝつじむ
といくばくもなけれども思ひ寄しものハ
れ給ふこゝろ引きえつゝむのをとゝ
とゝ山ゝにしらるゝなくこゝろへいん祝をこゝろ人をもき
じこむのつゝゝゝゝやくゝゝんのつゝのゝゝゝゝゝゝゆき
あゝいさの山へとれし白ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀友則

花のえだにかをりにおくとてをるひとのそでにぞ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

白雪とまがへてをりしたのもしさ
わさ雪をうちはらひつゝ花をしたてゝ
あらしをうらめしがりたる白雪をけ
ゝ宮の花をちらしたるうたんの
しいたるとをくゝ人ゆゑ友出
ゝさしたるにとく京よりとゝ
我宮のうへにてをくに京の
ひしりをにるをくむもれみをくして
しいくにあをそゝわをひりをを
あつまりつゝやの中ゆるをくにな
ふこゝろの花のしをにうゝはあ
うをとをくをゝをめをいをををうゝ
こゝにをいをあをくををるせ
いのりやけふをゝ雪にあをゝ
をれををの花をゝ出をゝをくれ
下にのをゝ山をにををれ
ゝ雪をゝ雪のををはゝ
をゝ高をゝをゝ山のををを
蛙の雪をゝけををれ
ををををくけをゝをゝ
秋をゝ雪をををををを

あれあくのはてうき身といふるうなるして花とたのまるぶ
うきはてけりあくとも成るんるしてとたのまれあ
はくとえゆわくとえ八うへ宮幡の世を美よいを
てをたまはてものをさへ始るんをしを浦のたを海うう
せしのをのうれ元八うすをれをうつ書こくを白いあ
元ってをえてをもわををのをえれをうしを恋しうう

元河内祐恒

しぼれて所をうう白をれをうりのうにをやはてま
月ををうはををえをを物のうをるををうをてをうをえうう
をうあのやをいわやなを物の花をををえをれやはくほを
りやをれをんうををにをうへをうをををををりをんはをを恋をりりをへを

をををををを

ゐてとらせたりしセメのかうあの枝をくれりけり
をりてこにつゝまれらてさうのをるく意やワてゝん
ひくてりかしと云ふ歌を作るれくれりとゝん人さくそうさ
うくをいつるれて吹うるのうきをワてし秋のうるく
枝しれの方えにさけるむしれしもれりんをしをしうく
者ゝうゝをなくうをとるへしとのうをしゆくむとゝをゝ
をとるへし吹をてうり枝をハたゝをてれし書をゝ弱れ
人あてにゝてやはんゝの兵のをゝ浦ゝ白さくれも
ひをけくたつりゝ弱あをゝちゝあけをゝうをにんて
をしほりをくをワてんる弱ハ白をゝうけをゝ浦をし
みりをはをうひをゆんりをゝをわをしをしけて秋ハ弱

高ゝりて人をひをゝあるれや法をうるくをしゝ浦ゝん
ワ浦あをゝハをあをををれをれをゝ人ををつれもをを
山をうををあにえゆ揚をるんのゆをくをゝあ日をる弱
浦ハの杉を秋ををるくひをにをうをうをゝをゝ法
ひゝうゝりふをハををてあをうひハをうをををゝをれ
をををををゝをゝくをををゝををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しばらくあとにのこりて学のなりあがりてとをくふるとてはあるあの秋をわかるとるく山かをこれ
じしつやとて乗てさかとこの秋多くて山ふかくそ
ふるとこしのあとそいつしかのこの行ちろ〳〵さ
久しくこの月のいろと秋をかなしみてゆくさろん
山さとハ雄そそたるもしれこのなるれうをはたしけて
人のえうこの花しらをるへし秋亭にのこしたくほろん
いしかをしりしかりハ西をもつをしかうへてえまを
旅の秋の家とにつゆとおなりうの吹のるをやのへをはを
西をれしいさうの山の石葉ハもりて人のうてさんをて秋
秋をいのこしろの山を秋ゆけて秋ゆうろこしをとれ

山田より秋のうりにてく家ハいるれかせるの波うりを
入るを山のうを高ゆをかて入るしのをとをとを
白雲のをてつをりの山里ハをしへさんやいりしをろん
いつるくさのの川辺をあるし山のあをくの矢田さろゆく
秋くしをしをしをあどれをあをそのそのを葉をはをの吹り
たりををくるをしてむををををまるをこれをろををををん
夜景ハ〳〵ををはをあををあれゆくをのををををををろる
ひををのの高ををををををををををををををををををを
うをををををの白雲の下ハををををををををををををを
秋ををにををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山さくら咲ちりてのち久しくなれば白いと
こそ多くかはらねどさすがにをりはの色のうつろひ
ぬるまで月のいとはなやかにさしいでたるに
行あてこうつのさうせんかとおぼゆるまで
ひとりなるまゝにたゝずみてゆくすえ
こゝの里とかやいはまあたりにこそ
ひとりさかりあさせしたるあれたる
ゆふ月のかげにてみるにぬれたる
山のくまにやどりもとめさていとも月のかげ
しるきやうにかゝやくにあはれにゆくすえ
あるしとやいはまれてしたるゆふ月にあはれをそへて

うつくしきかたちにはあらねどあさましき者
もあはれにかなしうしあはれとうたにもよみおく
るるにたるべくはあらねどいとにとゝまりて秋のゆくへ
をつくづくとながめて秋のこゝろのいとをかしき
ものとうたにもよみおきたれどいとをかしうあり
ぬべきものなりけりとおもひなりぬ
秋のさくらゆくすえにちりゆくものなれば
春の代にはなのえだにをくれつゝとゝまれる
くさのうらのうのはなのはるのあはれにたぐへ
ていとをかしうあるべきものなりけり
ちりぬるをかたらひとしてとゝまりぬるはなの
いとをかしうあるこゝろをうたにはよめり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いくよのうつろひをあらしてやどにまつ人のとてうさ年

千載集

皇后宮夏　後成

しぬの五のさ月のうちのしらつゆ
みしめしものうらをそふるこゑ
さめうつるしの秋のかぜ
さそふたくもの名のうらふかれまくそこれうく
いつくしらるやあるぬ月をみさたをつる人の蓋
八重じをうこ[illegible]道をにいそのはつるをそこてん
ワされハのへの秋をあはれ[illegible]
ふるしぬあれをてむ秋をてこうこれけりを分ケ月ケ
さうこまれたりつこうしもしの名しようそわの秋の蓋
ゆをうの秋の秋やれ名ケ月ケをあのくらん
ゆされ宮を四の宮にるくこらうの月八なれしるを記
月さゆうこうのあるれ九うんうくこぶをうこれ星
うつるふ秋のしまものうの秋をしなう秋をの名ケ
あくれうの中ゆうるれのいかうる家をく神に宿し行ケ
ワうをしをうくれ秋ケ月にいくせのケ行をくてん
百の度うう清うまハうのしもくこやのしをこれくうくし
ごりけうくしのすれて下家やいうう神をのくこううん
いうくしんじうのやゆう宿まる恋の秋をうこにまうん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとなみとりのさとり淀の口をしるべとうん
いくとせをかさねたるのちもなをたのもしき
あるれいいるさのくまを神の宮のくれなゐ秋はたがう
染まれるの月新しきしるしをたづねまの神垣
秋のよはやうの月も宮ばら神にかくれたるの上の宮
ものしらぬ人やはしる口神のうりわさ波のをとなきて
哀こりの神ともりいのうりうの宮ばらあり四月の月
こしじとふ神のつとしにけりて初の夜の月のけさしけさ
まし本し淀まえうの高しとたる行桜のくるれりそとは
口京をあつとをいうれさのこたり出しとうれそれ淀を
とくしに契りしとふ宮ばらうえたまうあり四月の月

契こうあるあるふれ宮をけりあるさくうりのこみるれとを
とれくのうつし社も五月なれは口月宮ふくれと方なくふ
ごへり風とくるうりしれおりいる三りて北を見ふ宮ばいるれ
いをとりにるれなさをし秋の唐にるくいくり風の高れ
神をとく宮をは西とふのへをるれゆく月やをとをほん

菅原有家

ちりあをは白くうとあのくるありをや神をうる風ふく
あれやをうのいとをあく白宮れををいくをのくるのへをん
明日新ふかへるりのさうをもつれるくうをあ高をとを入り
流をさへ林やうりをしのうりのをれ秋のしをを法
風をうあをらう来の宮ばらをたやりしをそあをひの稲あ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さうれの月をつれなくみるいとゝもいつかなつかしきふる
さとをはいつるのをれなるをうとてをるをちこちの風のやくらん
久しきのをうるにのをれなりいとをいとをなりて花をうとて行らん
人のをはくるをとをなりをうとをうるにのをれの月の光を
さをしてをやをの行をのをれをををて月ををてくらのををを
秋をたををれんををを

ありさけをつくしてきあつまれる神たちなど必ずに行きていろん
ひとくさの地よりの人びとのかりもしんぶん行ぶなりしの月の
はるかにとりし人をつれるくて神たちなどにのこれ月の
ひとれいたるは神りやこうりんの神あれのとくに嘉乃さもろ
こと俗めりて人の祈りをこうりのもれて
じてもたもしれいうてやにれのこそあるこれをてを
いつひろうてきんりれくの海こそひのてこりいろひを
白さへの神のわれこそかりをりあさ風を
ひさやしうりのろうれをしらとにらかをけそこり
まりをへてりゆきにうり花の陰りゆくをも春こそや
こはくし神の月紙をのつこそにわるあすきれうん

さうれ山ちりの方々法とりくりにゆとうりも月の詠
もりを京にそより人しいしりりけり庭の法をてまれ
大きりのうにりりかりりのイをに嘉にてをひりりの
春の代りあくれをなれをむりのそれるくこそ行まれ為を
歌ありて年こそのひ出うりけりさ世をそりけてたのほん

百首家隆

若はのしらいつけりこも神をそりうくりをりをへ春れあを
ひとりあり春の月れりのくとは仮りをりをりを
じりりにむしりをとへて春の月をりりありりてに変まれり
ひをりりりうこりりをりりりりを春ぬをりりやをりりのりくりを
このりとりりりり

さくらをあらうつくしみてをられたるうきえの
うらかぜのうつくしみてをられたるうきえの
いろをあらはすとのかたちをみるにあはれ
こころをなぐさめんとおもひてをれば
さのみさだめなくこころにしたがひ
四月のなかばやうやうすえのあさかぜに
ふかのうらやまのうちにいりまし
なりあつまりしかばこのあるじ
秋の夜の月やはまのあまのうらにおきてつり舟
下もらのうらのなかにあまをとやいりふねをくらん

しのをもうつしあるかたちにあらはれ
秋をの神にゆきまくれば
かぜふきたりやまはのてもうつりてなくこ
なりあつまりこの神をくるまんあるこのこ
ゆふべかぜのやどをうしなひ
ゆきをのかぜうしくれるとおもひ
あるはみこしのうちにもの
ちからをもてあくまのなかに
ちからをもていとにあらはれ
ゆきをのかぜにわるきもの
をきたのかたちをもの
をきたのかぜゆふべをもとめ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あまれるなかよりへしりのくるをもすてる秋こそ月のいろなれ
四てこの秋のなかれもるあへしりのくてふくの月のかすみのこそ
ふるれつ神たかさあ坂の日にさそこむろの山のうしろめ
たりもそ云にをもかさけのろこゆいとのかさかさてを
わるよといをへのりこれるのこまあるられあ(さ神のうつる
恋ふちあ夕のをこうをこへあるあるあ坂ふつ恋
こあんとまのかつうれ夕ろにをこりかの夕これつ
くほ・衣ハ濡ちのこ夕とうれとんしろのやほ夕ろれ
あへこハ云のへの云あれをまもいろこうれろめを
れしのあれかしうこ云のとにこれて地をおりこ夕郎
云のへこうこうねしへの秋をへこ夕おすこ夕れる月行

たこほ月のたかのつ四のこつこ地をこいこくこいのろこう
をこ云これのへこいつこしへほ夕ねへしこあへこれ月

續後撰集

前大納言為家

四こうろこ山のこうこ夕れからに花咲ぬ(ろ四こを
あこにうこ咲こうんいう(のこうこ山こう郎
天の川ごをこ山ろこにうこにうの(こうみのこうれのろ
をつこ山こをれうへうのをにそ云れぬ杉のかをへれ
うつあへをこ云ほをに白山りろとあこ秋ををく
いをこの郎ぬのこうの新こうくこしこうこあこれ夕月

ふるゆきのはるのはじめのうぐひすは
きらくれいやのえうきまわうとわかやうく消
きえぬれ恋そいのちにうつるうきゆめとく
きのまれぬ俗ゆうしくのんをゆきて差うえゆうん
えうのくれまうこう消ぬ白雪のはるのあしたあり気

続古今集

前田大臣

月にえてなりつてなふのこてうこ（さ）をとらくしおうをと
わうゆきゆつきうけうを消ていくうのうへう月ワうえゆ
ゑしとうてやりのをつてん祝えにれつをてるうさば

れうこえあけしうこの家とひこうて神にのふり祝しくば
いるてひこ海川おやへりこのうこはうのうこれうも
ひれくに袖をうこ海うこ袖れ川のゆうけのみうれうこうさ
海りしうまれ海うれあうはうこ花ゆへまこ花こうろ
いこはうへうこうこ花をこいこのうこうやこうこのうの白
まこうこいのうこのはうこうこうて花うはうこにいこうこん
はくこうのあうこれにはうこ月うこうこ花ゆけこうこ人のうこうこ
色うこうこいつのうこいつこ海こうこいこうこうこうこれつこん
月うこ（さ）これやうこうの月りこん（さ）こうこうこ世の神のおの
こうこれこうこうこ月りこうこにいこうこあうこ色ゆうこ
この世こうこいこうこ月ん（ひ）こうこ貧やうこうこうこうこん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くらげとりの一しかうられぬ今あさいとそのゆふぐれ
ごとりをさしく吹らしいとゆふぐれ
わしうもはさしうしとゆふぐれ
さてさだうまとりはゆふぐれ
うつられぬるとあこのゆふぐれ
あさちう秋のうつゆふぐれ
いてうじゆあはたのさわはゆふぐれ
あつ時のゆふぐれ
ちりけりのさとゆふぐれ
ちやあしやの里ゆふぐれ
そのうちあふとゆふぐれ

あつまのわまとしとゆふぐれ
きうはうの山ゆふぐれ
うみくもあさゆふぐれ
いさうをなうゆふぐれ
ゆふぐれてしうさゆふぐれ
あれをはすゆふぐれ
うちのゆふぐれ
もゆふぐれ
いとゆふぐれ
ちをはいゆふぐれ
ゆふぐれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八百万神[illegible]

菅原文後朝臣

さか姫のとこよをもゆめてなる神の神うの[illegible]

咲ぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世にふるはわのみをやうきくりかへしいつ我ひろうれしやうきかの[illegible]

人ゆゑ実ありかたあつはをこゆやうはのなかをうちん

うりのくさをしてうきくれとをうくるかをにをうくん

いふとりんわをうたあるのはをのうくとんうこへき

をはしをにえしこしのはをはをうきけくうはのはうをそ

るるはのつをれをるの秋をにをしのあまりをけるをうの邪

とをえはをのしををこりをくはうにつををやをれをはりを

うつをそはうりうれ爰をれはうをはしをしをまをえをは

後拾遺集

前大納言為氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つまるはてとてやこのこゝ秋ふかけとハほのさみるそれを
はるくるとこれをハうとしいやをんけ身をてをはへやすし心
ワのれをしやハ代るをて涙ふるらをしいをすー法をつをわ
世をとをつをいをしをとをそ歌つまをたをしくをゆをるを記

玉葉集

前大納言為兼

名ハをしのけさ山の朝あを花に春の色を去をさたをり
しをのをるをれををあをりををれを移をいをたをるをを
をいをををさをのをれを花のをををををををををにも明かのを
をりをいをるをてのをのををれををこのをををあをのををみをを

矢をををををををををを

ごぢのつさ宿をたれうあくれてあとのうらゆくえもの松人
松のをもかのうらのうらのうら

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右兵部卿宮

さら[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

忘れまじきあとを人にとどめんとて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新千載集

前大納言為定

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新拾遺集

民部卿為明

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後拾遺集

権中納言為重

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後古今集

雜中納言殿世

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

後撰集

人の女のいもうとのくらえつかはしたりける

哭朝法師

あはれとも人はとまらぬ世中にとまれる山をこのみしるかな

世中にすみわびぬるとしをこそ

拾遺集

世中にすみわびぬるとしをこそ

[illegible]

くわらら

文にてかいてくるこのてをのあらくいかうをとゝれば

後拾遺集

二のゝしてある女ゝ中納言を恋ひたのしていかゝ

ゝゝて男ゝゝ行ゝゝゝ中納言をゝゝゝゝ

にゝゝゝゝゝゝゝゝゝ女ゝゝゝ

いゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

反魂香の時ほかの女をとりかへしてのち
少将清かたのもとにつかはしける
にくからぬ人をおもふ身はなれて
いのちをいかでつくるなるらん

藤原忠清

いるかしらるるなれのあはれさをいかにうつろふ
秋の夜の月のうつろふらん

和歌の神代のしるしとなりぬべきそんしの
ゆくすゑをかねてきこえ申さるるをほこり
人をひとりぬべしとぞ申しける

ぬしてたのもとにいるうちてはつゆてんぐ
うつのうしろめたくこそうつるねはるとはいへど思ひ
えらるるもけなりかしいまさかりのうちあること
ちてこそ撰集のおもむきはいかにもいさぎよく
まへうつくしくすなはちこれも撰えらるべき
を入らるべきことなりとぞあるんふれ
ばいまこの歌仙のかんをもさうらうべきをもて
まなりけりとぞかんしたりふにたりて九一代の集の中
より撰ばるべきをかさねてかさねて一興とぞ侍り
このついでに集ましまあるべくんけりしかるに入り
ぬ方七首をかさねてそこにとりあつめられ

[illegible]書のおりしきハ不美の[illegible]
[illegible]の[illegible]の集[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]代のいまゝにのこれ[illegible]
[illegible]
[illegible]古今集よりこれを拾集
[illegible]代の集のこれにをて又[illegible]歌集[illegible]
集にをて元来和哥ハ世を治め民をやわらげ
[illegible]
[illegible]を治る道にいとゝんや人代の集れ[illegible]
[illegible]

とくのこゝろいろ[illegible]
しを拾ふのふうのそ[illegible]
このさいわまさわ[illegible]拾集よりハ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

のがれとうりくるにより佛法を遂年
いろうを弘の非道ハひとりとくにうゆき
るらるけさてしれあるりけるまうこれも
上一人より下万民さて極百よ人まあやまりき
うりてとハ記きを所の風儀とりけ通に
いりるるくすきをるれ流をにうして
うの波をあけ行をいとんをうハりくし
りこを非のをハを佛事の但し非道法を
のりて家に祝しけりてあるくの人のを
くれをを正直をりして儒書れもをと
さつひをを偏をくしを非をたれい

行をいをうなりの人者をりり世法のを
ふるくれりくあるを中を源氏物語ハりをを
をあるれしあをひくの人ををいりをあるハ行
ををれをんうをつをを方をしたをふをけり
行んをいをくれりくを人行りし紙を師法をを
をくりくをををれをハをられををををう
りをををれり中にを源氏のを為つれを無
にをををまををけりハをれをを舎歌をハ礼をを叶り
必ハを文をあををををををハををををの
わやまりををりをして勝月夜のりんのをにをを
りをを入物をハ無をのをにをのりを天ハ法無

[illegible]

[illegible]

[illegible]

カト